

発行番号 評2020-075号

性 能 評 定 書

設備機器の種別		防火材等（令8区画貫通配管等）
型 式 記 号		エスロン耐火VPパイプ（FS-VP）
申 請 者	住 所	大阪府大阪市北区西天満2-4-4
	名 称	積水化学工業株式会社
	代表者氏名	代表取締役社長 加藤 敬太
性能評定番号		RK2020-006号
性能評定日		令和2年（2020年）10月26日
性能評定有効期限		令和6年（2024年）3月31日
性能評定の内容		標記令8区画貫通配管等は、別添評定条件の範囲内で使用する場合において、「令8区画及び共住区画の構造並びに当該区画を貫通する配管等の取扱いについて」（平成7年消防予第53号）記1(2)に規定する耐火性能を有しているものと認められる。 対象：床

本設備機器は、一般財団法人日本消防設備安全センターの定める消防防災用設備機器性能評定規程第5条の規定に基づき、厳正なる試験を行なった結果、上記の性能を有するものと認めます。



一般財団法人 日本消防設備安全センター

理事長 門 山 泰 明



別添

令和2年10月26日

評 定 報 告 書

消防防災用設備機器性能評定委員会
委 員 長 次 郎 丸 誠 男

消防防災用設備機器の種類	防火材等（令8区画貫通配管等）
型 式 記 号	エスロン耐火 VP パイプ（FS-VP）
申 請 者 名	積水化学工業株式会社
	大阪府大阪市北区西天満 2-4-4

評定結果

標記令8区画貫通配管等は、別記評定条件の範囲内で使用する場合において、「令8区画及び共住区画の構造並びに当該区画を貫通する配管等の取扱いについて」（平成7年消防予第53号）記1(2)に定める基準を満たすものであり、消防法施行令第8条に規定する開口部がない耐火構造の床と同等の性能を有するものと認められる。

対象：床

構 造	： 厚さ 150mm 以上 （鉄筋コンクリート又は鉄骨鉄筋コンクリート）
開 口 部	： 配管の呼び径が 125 以下の場合は直径 209mm 以下の円形、呼び径 150 の場合は直径 260 mm以下の円形
配管用途	： 排水管及び排水管に付属する通気管



別記

I 評価概要

1 構造および材料

(1) 構造

本評価の構造は、膨張性黒鉛を混入する硬質ポリ塩化ビニル管と耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手を用いた配管が床を貫通する構造である。

耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手に、立て管及び横枝管を接続した床貫通部の構造例を図1～2に示す。

単位：mm

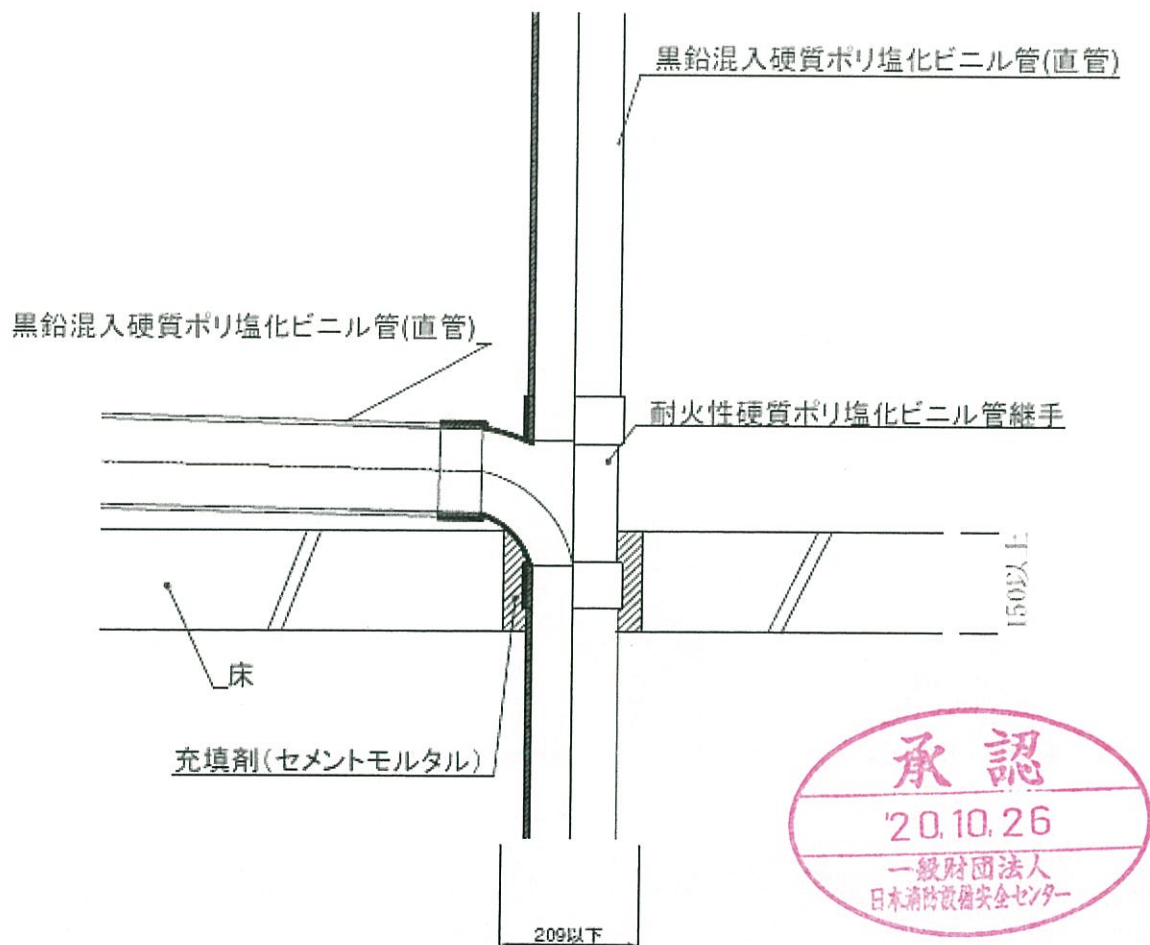


図1 配管の構造例（呼び径125以下）

単位：mm

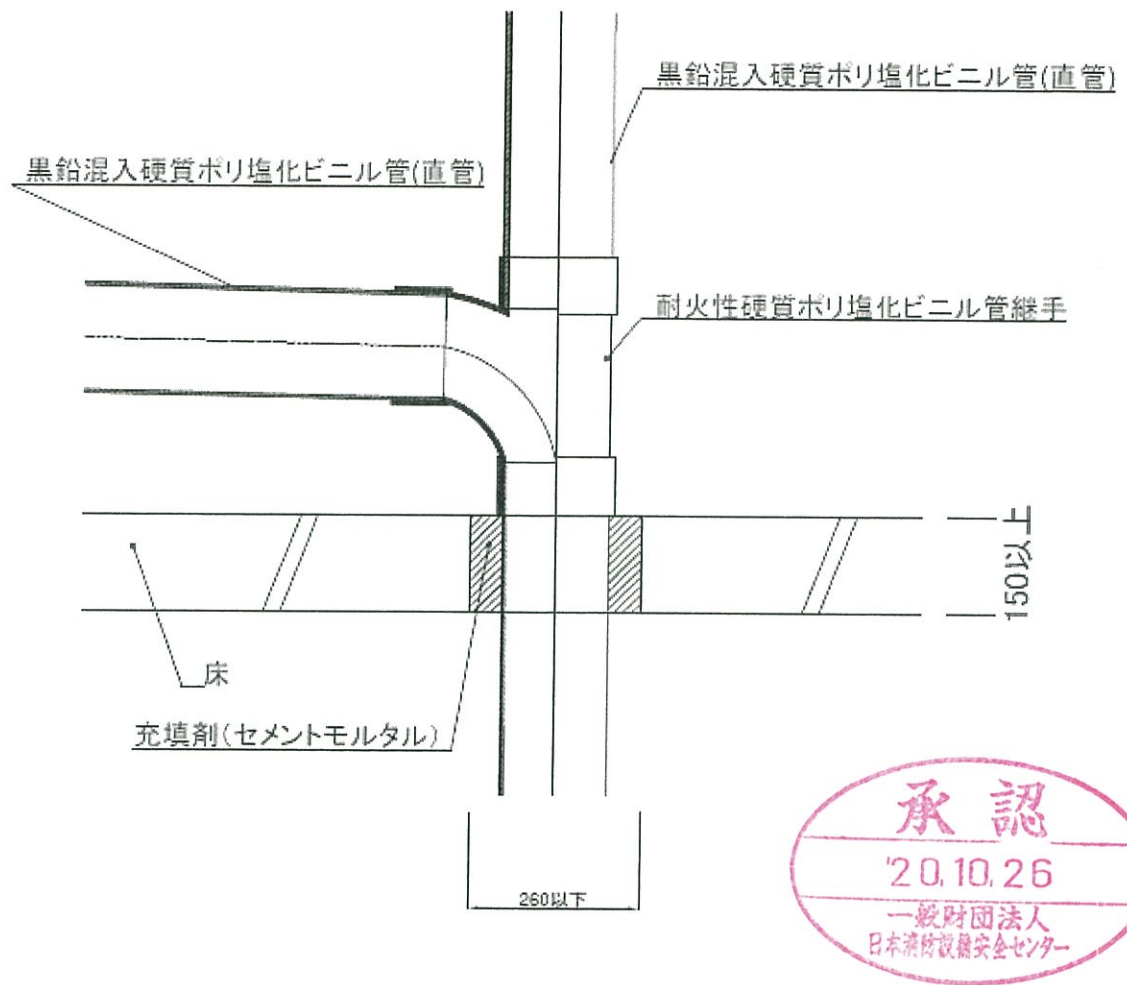


図2 配管の構造例（呼び径150）

(2) 材料

ア 膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管

(ア) 構造

膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管は、内外層にJIS K 6741の性能を有する硬質ポリ塩化ビニル樹脂を用い、中間層に黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル樹脂を用いた三層一体構造であり、その構造を図5に示す。

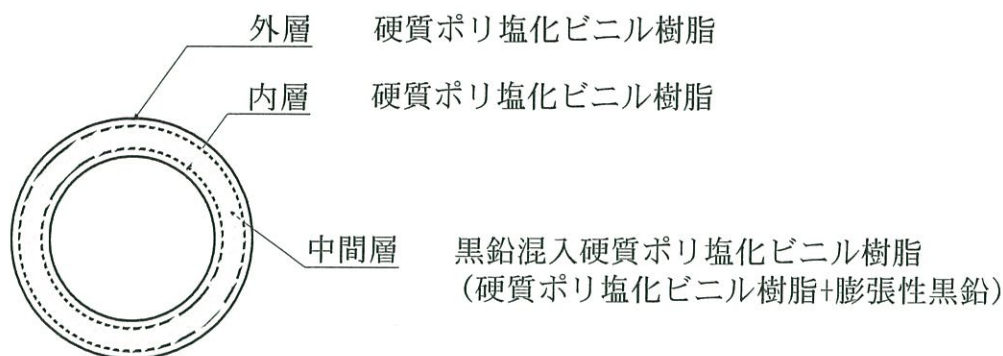


図3 膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管の断面構造例

(イ) 寸法

膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管は、外径、厚さ並びにその許容差にあってはJIS K 6741（硬質塩化ビニル管）のVPと同じであり、寸法は次のとおりである。

(単位：mm)

呼び径	外径	許容差	全体の厚さ	許容差	内層・外層の 最小厚さ	中間層の 最小厚さ
40	48.0	±0.2	3.6	+0.8	0.3	2.0
50	60.0	±0.2	4.1	+0.8	0.3	2.2
65	76.0	±0.3	4.1	+0.8	0.3	2.2
75	89.0	±0.3	5.5	+0.8	0.4	3.0
100	114.0	±0.4	6.6	+1.0	0.5	3.6
125	140.0	±0.5	7.0	+1.0	0.6	3.8
150	165.0	±0.5	7.0	+1.0	0.6	3.8

(ウ) 材料

膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管の耐火性硬質ポリ塩化ビニル樹脂の組成は次のとおりである。



(エ) 物理的性質

項目	性能
膨張倍率	950℃4分間加熱で3倍以上

イ 耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手

(ア) 構造

耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手は、耐火性硬質ポリ塩化ビニル樹脂を用いた単層構造であり、その構造図を図6に示す。

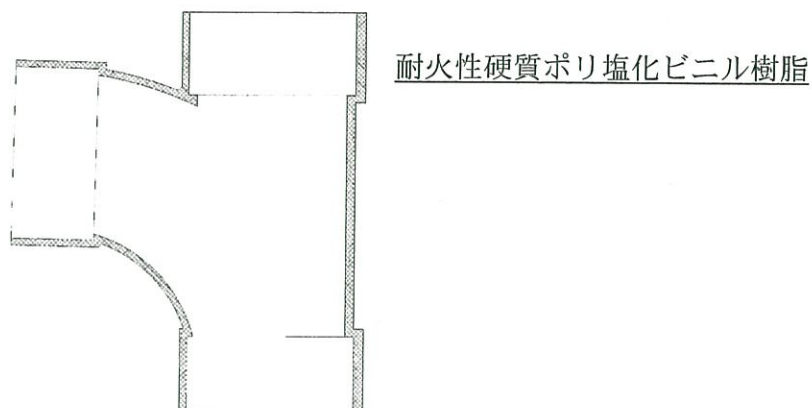


図4 硬質ポリ塩化ビニル管継手の断面構造

(イ) 寸法

耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手は、外径、厚さならびにその許容差にあってはJIS K 6739（排水用硬質塩化ビニル管継手）のDVに同じであり、接合部の寸法は次のとおりである。

（単位：mm）

呼び径	外径寸法	受口長さ
40	43.3	22
50	66.4	25
65	82.4	35
75	96.3	40
100	123.2	50
125	150.1	65
150	177.1	80

(ウ) 材料

耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手の組成は次のとおりである。



(イ) 物理的物性

物理的性質は、次のとおり JIS K 6739 の DV に準ずる。

項目	性能
引張降伏強さ	45 MPa 以上
耐圧性	0.35 MPa 以上
扁平性	外径の 1/2 まで圧縮し、割れおよびヒビなし
ビカット軟化温度	76℃ 以上

ウ 接着剤

施工時に使用する接着剤は硬質ポリ塩化ビニル管の接着に用いる一般的な塩化ビニル・酢酸ビニル共重合樹脂系又はアクリル樹脂系のものである。



2 施工仕様

鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリートからなる床に次のとおりの施工を行う。

(1) 施工手順

耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手の施工手順

ア 管が区画貫通し、継手が接続される位置に予め開口部を設置する。



図5 開口部の設置

イ 継手の接続部に立て管（膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管）及び横枝管（膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管）を配管する。

（呼び径125以下は継手が床の下面から突き出ない位置にあることを確認する。

呼び径150は継手端部が床に埋まらない位置にあることを確認する。）

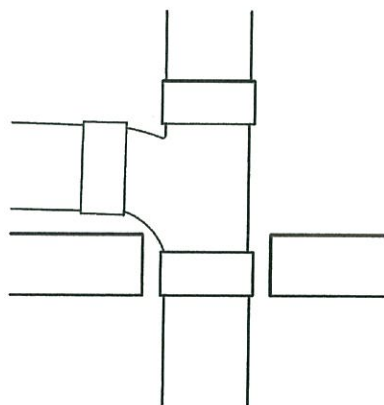


図6 管の配置（呼び径125以下）

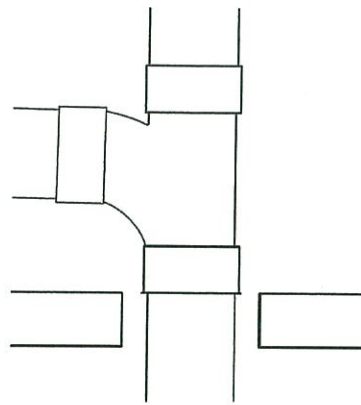


図7 管の配置（呼び径150）

ウ 接着剤で接続する。



エ 埋め戻しは板等で仮押えし、セメントモルタル（セメント：砂＝１：３）を充填する。

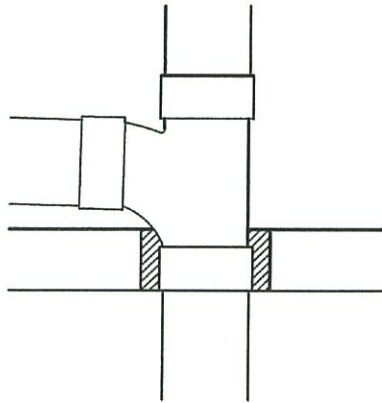


図8 セメントモルタルの充填
（呼び径125以下）

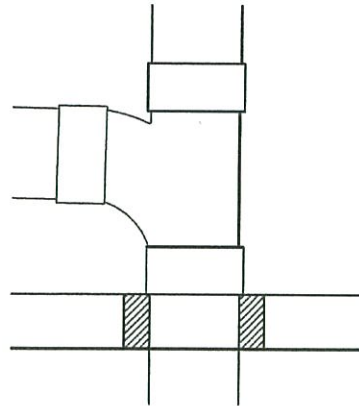


図9 セメントモルタルの充填
（呼び径150）



(2) 施工図例

ア 耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手の施工図例（呼び径125以下）

単位：mm

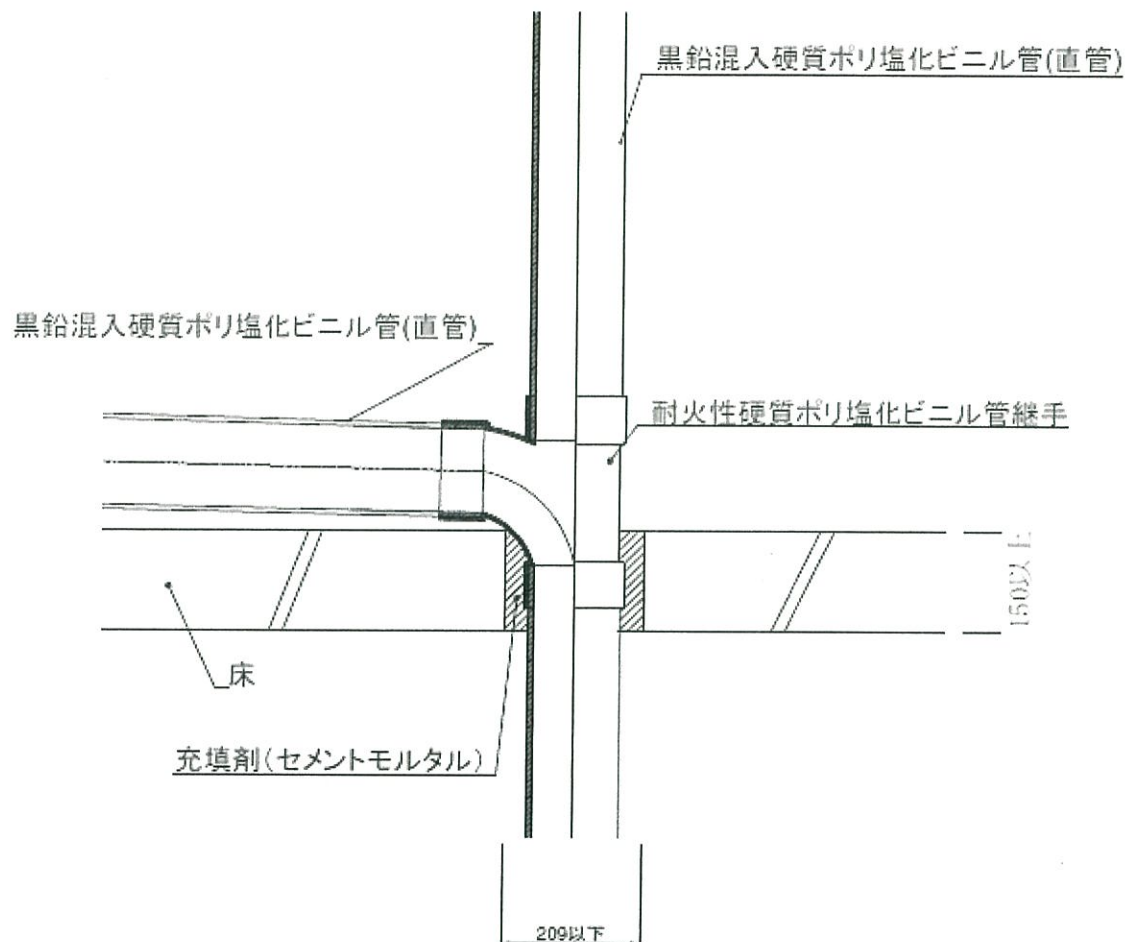


図10 施工図例（呼び径125以下）



イ 耐火性硬質ポリ塩化ビニル管継手の施工図例（呼び径150）

単位：mm

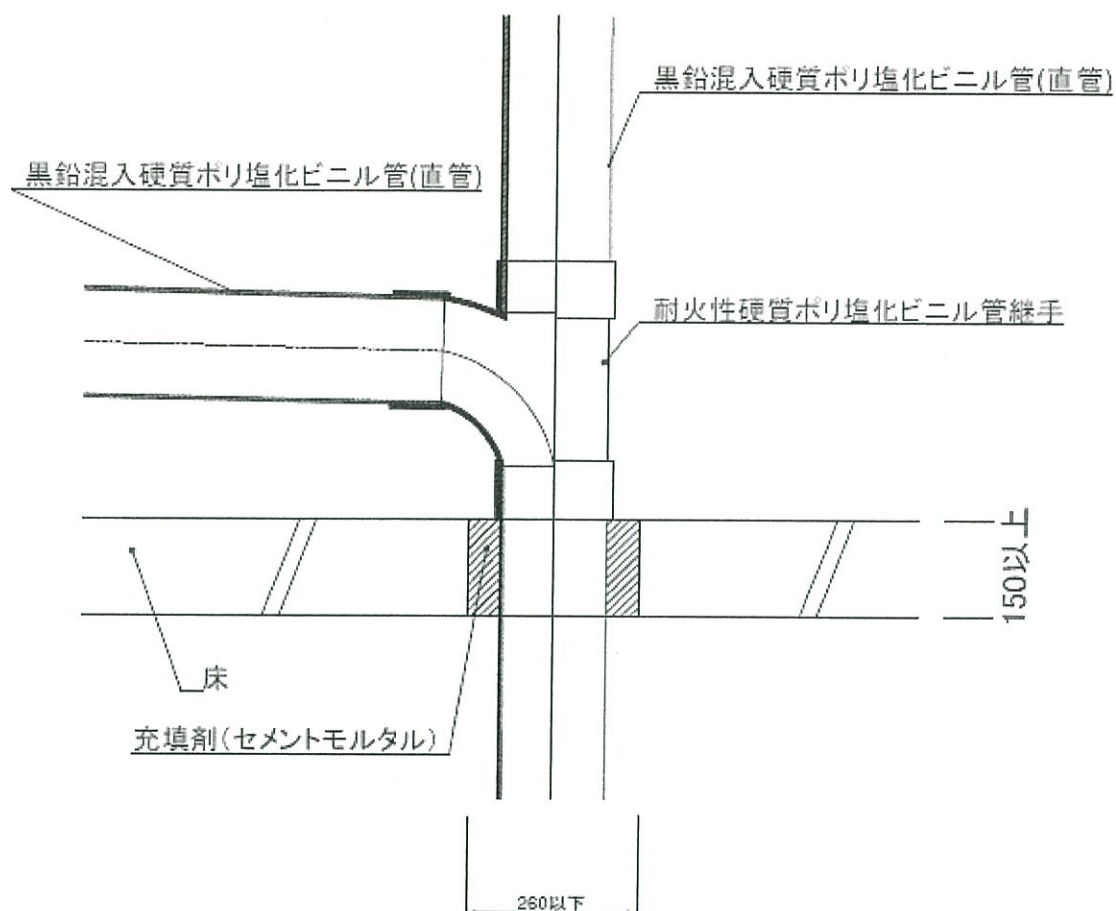


図11 施工図例（口径150）



3 試験結果の概要

本工法の耐火性能については、次のとおりである。

試験項目	試験内容	試験結果
区画貫通部の耐火性能 (床)	試験体 A 1 1 床厚 150mm 2 床材質 鉄筋コンクリート (PC パネル) 3 開口部 $\phi 209\text{mm}$	良 (2時間耐火)
	試験体 B 1 1 床厚 150mm 2 床材質 鉄筋コンクリート (PC パネル) 3 開口部 $\phi 260\text{mm}$	良 (2時間耐火)



Ⅱ 評定条件

1 施工上の条件

- (1) 令8区画を構成する鉄筋コンクリート又は鉄骨鉄筋コンクリートからなる耐火構造の床（以下、「耐火構造の床」という。）を排水管及び排水管に付属する通気管が貫通する部位に適用すること。
- (2) 配管等を貫通させるために設ける開口部は、呼び径125以下の場合は直径209mm以下の円形、呼び径150の場合は直径260mm以下の円形であること。
- (3) 配管等を貫通させるために設ける穴相互の離隔距離は、貫通するために設ける穴の直径の大なる方の距離以上（ただし直径が200mm以下にあっては200mm以上）であること。
- (4) 開口部を貫通する配管は「Ⅰ 評定概要 1 構造及び材料」に記すところによること。
- (5) 厚さ150mm以上の耐火構造の床に適用すること。
- (6) 貫通部は、施工仕様に基づく詳細な施工方法に関するマニュアルにより施工すること。

2 品質管理上の条件

膨張黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管の試験片を950℃で4分間加熱した時の膨張倍率が3倍以上であることをロット毎に確認すること。

